2020年3月5日_日刊建設工業新聞

発行所 日刊建設工業新聞社 〒105－0021 東京都港区東新橋

おけるBIM／CIM実施要領（案）▽BIM／CIM活用ガイドライン（案）▽CIM導入ガイドライン（案）―を整備した。

実施要領は発注者がBIM／CIM業務などを発注

実施を支援する。

測量、地質、設計、施工、維持管理の各段階でのBIM／CIM活用の目的を明確化。発注者が求めるべき活用項目を整理し、BIM／CIM成果品の品質の確

面についても盛り込む。

全般的な見直しを踏まえBIM／CIMモデルを「対象とする構造物等の形状を3Dで表現した『3Dモデル』『属性情報』『参照資料』を組み合わせたも

プレストレスト木質構造の建物イメージ。内部は最大11㍍の大スパンで自由度の高い大空間が可能になる

フィスや商業施設などで約11㍍の大スパンによる大空間・大開口が可能になる。実物件への適用に向けた構造性能の確認実験などによって設計法を確立した。

プレストレスト木質構造

C鋼材がフレームの変形を元の位置に戻そうとすることで高い耐震性能を発揮する。同構造の採用例として、同社は2階建て延べ約2500平方㍍の事務所・食堂の場合、最大スパン11㍍が

建築士試験の受験機会の早期化などを目的とした改正建築士法が1日施行された。将来を担う次代の建築士の安定確保に向け、新しい建築士制度がスタートする。建設・不動産関連の資格取得を支援する総合資格学院の岸隆司学院長は、今回の法改正で「建築士の量と質の向上により、建設業界発展の人的基盤を整える」ことの重要性を説く。

◇

――士法改正の影響は。

「直近5年は建築士の受験者数、合格者数ともほぼ横ばいの状況にある。ゼネコンは様子見の企業が多く、1級建築士の受験者数を一気に増やす話はあまり聞こえてこない。一部で今春入社の新卒社員に受験させる動きもあるようだが、大半は現場力の強化に向けて施工管理技士の増加に注力している。当学院の調べでは、建築士試験の合格に

総合資格学院 岸 隆司学院長に聞く

改正士法施行 建築士の門戸拡大

は1000時間以上の学習時間を確保する必要があることが分かっている。意識の高い社員中心に受験させる姿勢はすぐに変わらないだろう」

「都道府県などは建築主事が不足しており、受験者を積極的に増やすだろう。当学院と提携する自治体も増え受講生は増加傾向にある。専門学校は生徒たちに大卒よりも早く資格を取らせて差別化を図ろうとしている。当学院では

【改正建築士法】建築士の安定確保を目的に改正、関係する政令や省令、告示も合わせて1日施行。建築士試験の受験要件だった実務経験が「免許登録要件」に変更され、大学卒業後すぐに受験可能に。免許の実務経験の対象範囲に、建築物の調査・評価や建築・住宅・都市計画に関する行政業務などを追加した。

量と質の向上で人的基盤整備

1級建築士の20年度受験者が例年より1600人ほど増える見通しだ。全体では学科試験の受験者数が19年度の2・5万人から20年度は3万人程度に増加すると見ている」

――大学は在学中の研究活動への影響を危惧している。

「受験機会の早期化に賛否両論あるが、大学側は学業に支障を来す恐れから慎重派が多い。社会人は勤め先が受験勉強に必要な研修費用や時間を融通してくれるが、一般の学生に受験対策の余力はない。現場経験がないと製図試験も簡単には受からないだろう。合格者のボリュームゾーンは30代から20代に移りつつあるが、20代前半が一気に増えるとは考えにくい」

――試験の難易度をどう見ている。

「19年度の1級建築士試験で学科の合格率は上がったが製図試験の採点が厳しく、総合の合格率は12％と例年と変わっていない。製図では法規違反などで重大な不適合がある図面と判定される受験者の割合が増加した。試験で求められるレベルは年々高くなっており、依然として合格のハードルは高い」

「士法改正後、初の試験で変化の大きな1年となる。当学院では勉強の計画や進捗（しんちょく）を管理しやすい独自の合格ダイアリーの活用など、受講生の効率的な実力アップをサポートする。現在、学科・製図試験を1年で突破するストレート合格者の7割近くを当学院の受講生が占めるが、20年度は占有率100％を目指す。例年にも増して合格にこだわって大改革を進めている」。

無料で不用品回収